

【2023 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
地域づくりとコミュニケーション (人間コミュニケーション学科)		選択必修	1	1.2	通年 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡邊 隆文 他	B307	t.watanabe	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>建学の精神「豊かな人間性」を持って「開かれた共創力」を社会実装化するために、社会学・社会福祉学分野に立脚したコミュニケーションの世界に触れて、自己と他者・社会の幸福に寄与できる素地を体感することを目的とする。</p> <p><概要>社会学・社会福祉学分野に立脚した持続可能な地域社会の課題解決に資する理論背景及びコミュニケーション・スキルについて、人間コミュニケーション学科の社会学・福祉学系教員が各自の専門性・実践を活かしつつ、オリジナリティ溢れる教育コンテンツを提供する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	人間コミュニケーション学科 1 年生の選択必修であり、同時に学科の社会学・社会福祉学系教員の教育的な専門性を一同に体験できる授業である。ぜひ楽しんで全ての回に参加してほしい。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	講師により適宜紹介する。				
外部教材	講師により適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	地域社会の課題解決に資する理論的背景を自身の行動に活かすことができる。			HSU(1) (2) (3) / HC(1) (3) (5)	
②	コミュニケーションのスキルを知り、実際に表現することができる。			HSU(4) (5) / HC(2) (6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (授業概要、学びの流れについて理解する) 将来の夢と 10 年後の自分 一人と環境の交互作用から考える	講義・演習 [担当]渡邊	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	3	
2	幸せに必要な資格ってなんだろう？ ーキャリアビジョンについて考察する	講義・演習 [担当]田村	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	4	
3	お金を稼ぐのは誰のため？ ー人と人をつなぎ地域をつくる経営	講義・演習 [担当]田村	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	4	
4	共感の ON-OFF ーコグニティブエンパシーと多感非情のコミュニケーション	講義・演習 [担当]間嶋	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	4	
5	人が人を支援するとはどういうことか？ ー障がいがある人への介助を例に考える	講義・演習 [担当]増田	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	4	
6	地域社会に与えるスポーツの意義 ースポーツの価値を考える	講義・演習 [担当] 升	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	4	
7	少子化から見る家族の変化とは？ ー子育てしやすい環境について考察する	講義・演習 [担当] 堤	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	4	
8	自分らしさを形作る土着の影響 (国・地域・文化) ー多様な人々が多様な地域でつながり合う平和を考える	講義・演習 [担当]鈴木	授業中に学び思考できた内容をレポートにまとめる。	3	
試	/				

【2023 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	100	0	0	0	
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	20	0	0	0	20
	コミュニケーション力	0	20	0	0	0	20
	取組みの姿勢・意欲	0	40	0	0	0	40
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	授業の開講期間のうち、全ての回で小レポートを課す。いずれのレポート課題も授業内で学び体感した内容について概観した上で、自身の行動・生活にどのように取り込めるか、思考してみた意見を論述するものとする。各回の担当教員が持ち点（12.5点）内で評価を与えて、総合計の得点にて単位評価を行う。				コメントを付して返却する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	鈴木 真吾、堤 美智、升 佑二郎、田村 正人、間嶋 健、増田 洋介						
教員の実務経験							
実践的授業の内容	社会学・社会福祉学の広範な研究・実践の経験を踏まえて、地域づくりについて様々な観点から各担当講師がオリジナリティ溢れる教育コンテンツの提供を行う。						
そ の 他	全 8 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。また、集中講義の日程は詳細が確定次第、学科から周知する。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われ得る。						